

一般演題2-6

当院における高気圧酸素治療患者の感染対策について

遠藤汐梨¹⁾ 平井 誠¹⁾ 加藤晃典¹⁾
 小川 駿¹⁾ 東后真奈美²⁾ 村田 純³⁾
 齊藤久寿³⁾

- 1) 札幌麻生脳神経外科病院 臨床工学科
 2) 札幌麻生脳神経外科病院 感染管理室
 3) 札幌麻生脳神経外科病院 脳神経外科

【はじめに】

当部署では、SECHRIST社製1種高気圧酸素治療装置（以下HBOとする）6台を稼働している。HBO患者が感染症を有することも多く、これまでは標準予防策に加え午前もしくは午後の最終治療時刻でHBOを実施し、2次感染を予防していた。

2017年4月より感染管理室が設置されたことを契機に感染対策の見直しと業務改善を実施した。

【方法】

2013年1月から2018年7月までの感染症を有する治療患者数と感染症名、治療継続の有無を後ろ向きに調査した。治療継続の場合の感染対策と環境清掃、手指消毒の必要性を見直した。

【結果】

2013年、2014年、2015年はMRSAとESBLが大半を占めていた。2016年は院内伝播のためインフルエンザA型が多かった。2017年のインフルエンザA型は2016年の院内伝播からのものである。2018年は感染管理室を設けたため、検査の項目が増え感染症の種類が増加している。（図1）

また2017年4月を境に月別の感染症を有するHBO患者数は横並びだが、治療を継続する患者が増加した。（図2）また院内全体の感染に対する意識変化があり、当部署でもHBOチャンバー内だけでなく、ストレッチャーや患者に使用したバスタオルや血圧計などの物品への感染対策の見直しを実施し、更なる2次感染防止に繋がった。

【考察】

個別での調査結果においても、同じ治療時刻でHBOを実施した他の患者への2次感染事例が現在も

見られていないのは、感染対策を徹底したことが効果継続に繋がったのではないかと考える。

【結語】

感染管理室と連携を図り、感染対策に伴う業務改善を実施した結果、治療を継続する患者が増えたことで病院並びに患者の不利益は減少できた。今後も患者間での感染を生じさせないため、より良い対策を考えていく必要がある。

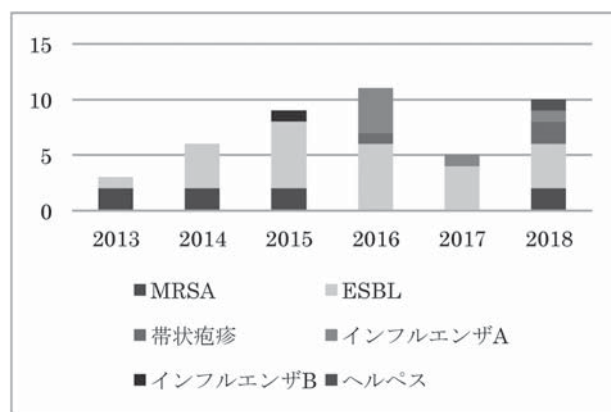


図1 感染症の種類



図2 治療継続の有無